

長石川武美等其の前途を憂慮し雜誌協會の問題と偶  
博文館が雜誌社に對する債権關係を利用し聯盟切崩に  
努めたる結果博文館精美堂兩社の脱退となり、残余  
の十社提携を持続して今日に至りしものである。  
本爭議の勃発に對しては十社は全く對岸の火災視し一  
月十一日には博文館製造の「インク」は絶對に使用せざるこ  
とを決議し、更に同月二十二日には縱令共同印刷會社よ  
り爭議中の印刷物引受け方の交渉あるとも断じて之に應  
ぜざることを申合せり等往日の反感は露骨に表明せられ  
た。

(因に本社は爭議解決後本聯盟に對し過去の行動を陳謝再び加へるこゝふた)

### 六 爭議團の行動

罷業職工は連日各集合所に參集し、購買組合博文館共  
働社(註)よりの供給による炊出の配給を受けつゝ、或は演説  
會、娛樂會、運動會、上野動物園への示威的散策等結束  
維持に腐心し又一方に於ては警備隊を組織して裏切防止

家族慰問、工場出入者の監視、不參集者の狩出に努め  
又前記共働社よりの寄附金四百五十円を基金として行商  
隊を組織し市郡に亘りて活動し連日五十円乃至十円の純  
益を収め爭議資金の補填に努めた。  
この間會社は別項の如く軟派の切崩により作業を開始  
することゝあせし爲り之れを聞知したる警備隊員約二百  
名は頗る昂奮の状あり、二月一日午前二時之等裏切職工  
を彈劾すべく精美堂工場寄宿舎に殺倒し約百五十名の檢  
束者を出し、同日夜も工場襲撃を企て、十四名檢  
束され、更に三月十五日には無産青年同盟に屬する罷業  
職工約百五十名又もや工場を襲撃せんとして約三十名檢  
束され、等其の他放火毆打、器物破壊等の暴行隨所に演  
ぜられ、爭議の永續は罷業者の心理を悪化せしむると同  
時に他面に於ては一般の士氣を沮喪せしめ稍もすれば結  
束紊れんとし幹部の焦慮も想像に余りあつた。

(註)

會社は從來共濟部の事業として物品供給部を設け従業員